

令和 5 年 6 月 14 日現在

機関番号：32685

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18H00647

研究課題名(和文)近世において文庫を創設・形成した大名に関する総合的研究

研究課題名(英文)Comprehensive research on the feudal lords who founded and formed bunko in the early modern period.

研究代表者

前田 雅之(MAEDA, MASAYUKI)

明星大学・人文学部・教授

研究者番号：00209389

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,400,000円

研究成果の概要(和文)：大名文庫間における蔵書群を文庫間で比較検討して個々の文庫の固有性、ならびに、大名文庫間の共通生を見出して、大名にとって古典とは何かを明にしようとした。しかし、20年～23年までのコロナ禍によって、調査そのものが実行不可能にある案件が多数現れ、狙いの半分も成果が上げられなかったのは如何である。とはいえ、大名文庫の一部(島原松平文庫など)はかなり調査が進み、他の大名文庫との比較研究の基盤はそれなりに整備されたと確信している。大名文庫の総合的研究の突破口は開けたと考えている。今後も大名文庫研究は持続していきたい。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまで大名文庫は所蔵図書の関係でしか、関心を持たれていなかった。古典・古典的書物を近世において最も多く所有していたのが大名文庫である。大名文庫の性格を明らかにすることは、大名・武士と古典、および、どうして大名がそこまで古典を集めていったのかといった文化的意義は言うまでもなく、近世においても、著者がいう「古典的公共圏」が健在であり、近代以降の社会とは異なる価値観・公共圏が展開かつ定着していたことを本研究は明らかにしたと考えている。近世像のコペルニクスの転回をもたらす可能性が大である。

研究成果の概要(英文)：The study compared the collections of the Daimyo bunko with each other to discover the unique characteristics of the individual bunkos and the commonalities between them, and to clarify what the classics meant to the Daimyo. However, it is regrettable that not even half of the intended results were achieved, as the corona disaster from 2008 to 2011 made many projects unfeasible to carry out the surveys themselves. Nevertheless, some of the Daimyo bunkos (e.g. the Shimabara Shohei bunko) have made considerable progress in their research, and we are confident that the basis for comparative research with other Daimyo bunkos is reasonably well developed. We believe that a breakthrough has been made in the comprehensive research of the Daimyo Bunko. We hope to sustain the research afterwards.

研究分野：古典学・中世文学

キーワード：大名文庫 古典的書物 書物の移動 書物の収集・蓄積

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、これまで「**室町期における下賜・献上・進上本の基礎的研究**」(基盤 B、2006 - 2008)、「**南北朝期から江戸初期における書物の移動に関する基礎的研究**」(基盤 C、2010 - 2014)、「**室町～江戸初期における書物移動と大名文庫の蔵書形成に関する総合的研究**」(基盤 B、2014 - 18)の科学研究を通して、室町期から江戸初期における書物の移動(下賜・献上・進上・貸与・売却・購入など)を通して、古典的書物の動態・定着の過程を研究してきたが、近世に至ると、古典的書物の所蔵者がこれまでの公家・寺社・武家(将軍家)以外に大名家が加わることが研究調査の過程から分かってきた。そこで、近世における古典のありようを押さえるために、全国の大名文庫における蔵書形成を主眼とする本研究を着想したのである。

### 2. 研究の目的

これまで大名文庫は、ある書物の所蔵場所と認定されることが多く、書物を所蔵する文庫についての関心もさしてなく、ましてや、大名文庫同士を比較検討することなどは考えられていなかった。本研究では、複数の大名文庫間における蔵書群を比較検討することによって、個々の文庫の固有性のありようを探るばかりでなく、それと同時に、複数の大名部文庫間において共有される蔵書の同一的ないしは類似的な傾向を見出すことによって、大名にとって古典および古典籍とは何であったのかを明らかにすることを目的とした。なぜならこうしたアプローチが近世における古典の意味・役割を解く鍵となると考えたからに他ならない。

### 3. 研究の方法

以下の通りである。代表者および分担者計 12 名によって、1, 対象とする文庫(肥前島原松平文庫、池田家文庫、宇和島伊達家他四国の大名文庫、津軽家文庫、柳沢家文庫、青山家文庫、榊原家文庫、真田家文庫、秋田佐竹家文庫、仙台伊達家文庫、小倉小笠原家)を分担し調査する。2, 書誌データの収録と撮影を行い、それらを科研メンバーが共有するグーグルドライブへアップする。3, データの共有を前提に、兆成果を研究集会等で発表する傍ら、科研メンバー全員で大名文庫の蔵書傾向の共通性(どのような書物が共通に集められているのか)と固有性(対象大名文庫の特性)を見出ししていく。そこから、上記の大名文庫をモデルとして、大名文庫の一般性・固有性・共通性を明らかにしていくことである。

### 4. 研究成果

概要にも述べたように、本研究は研究期間の半分以上、3 年に及んだコロナ禍によって大きく阻害された。本来ならば、大名文庫蔵書のデータは現在以上に集積され、幅広くかつ深い比較検討の展開が予想されるはずであったが、いかんせん、これが未達になってしまったことは極めて無念であると考える。

だが、それでも、集積されたデータ群、zoom を含めた研究集会における研究発表によって、明らかになったことも多い。

まず、これまで知られていないさまざまな大名の特徴が分かってきた。1, 小倉の小笠原藩では礼法書物が特に残されていること、2, 佐竹家文庫はほぼ散佚しており、売立目録等からしか再現できないこと、3, 大名屋敷の位置による書物の交流などがあったことなど、4, 大名間を超える共通性のある書物・書物群があること。譜代大名文庫では当然であるが『三河物語』といった徳川家の由緒を語る書物は古典として必ず蔵されていたこと、と同時に、大名であるから軍書・武家故実書はほぼあること。5, 『古今集』・『伊勢物語』・『源氏物語』、『詠歌大概』といった

絶対古典と言える書物や著名な私家集・歌論書はほぼ全大名に共通して蔵されていたこと、5、肥前島原松田等文庫や仙台伊達文庫には、共通する書目が多いが、急有される歌書・歌集において、これまでの研究ではさして注目されてこなかった室町期の歌集などがそれなりの重みをもって蔵されていたこと、これは従来の古典認識を変更する可能性がある。6、和書と同じくらいの漢籍もかなりの量に及ぶこと、但し、今回はこちらには踏み込めなかった。

こうした事実が相互のデータを比較することによって分かってきた。

次に、大名文庫の形成時期や他の大名との交流関係によって、蔵書構造においてさまざまな差異が見られることも分かってきた。というのも、一概に大名文庫と言っても、形成時期が初期なのか、中期以降なのかで、蔵書構造(中期以降は写本に加えて版本の比率が高くなる)が異なるからである。今後、地域のみならず、形成時期を細かく区分して、さらなる調査を行うならば、大名文庫の蔵書構造に加えて、時代を超えた共通性と時代による変化を見ることが可能となり、いずれは大名文庫のスタンダード像が提示できると考えられる。

第三に、書物以外の問題が明らかになってきたことである。まず、肥前島原松平文庫と鹿島鍋島祐徳稻荷文庫では共通する書物が多い。その原因は、それぞれの文庫形成者である松平忠房と鹿島鍋島直条が叔父・甥関係にあったからである。こうした大名間において縁戚関係は書物流通・貸与・書写におけるかなり重要な要素である。もう一つ例を出せば、仙台伊達吉村は稲葉正通の甥であり、吉村は正通から『正広自歌合』を借りて写している。また、忠房は正通ないしは父正則からその本を借りて写している。こうした縁戚関係を通しての蔵書形成は他の大名においてもあったはずであり、これは今後さらに追求する必要がある。加えて、縁戚ではないが、いい人間関係(文人仲間など、後期の場合は松平定信が主催したサロンなどは注目すべきだろう)があったのか、はたまた、前述した江戸における屋敷の位置、江戸城における控えの間の問題などを考慮しつつ、立体的かつ多面的な比較検討を行う必要があると考える。

ともかく、今回の科学研究は、これまでほぼ無視されていた大名文庫および大名文庫間の関係に着目し、実際の調査によって、それらを部分的であれデータ化したこと、そして、その後の研究の基礎の第一歩を切り開いたことが最大の成果だと言ってもよいだろう。とはいえ、本格的考察はまさにこれからである。科研は終了したものの、今後も地道に研究を継続していく所存である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 前田雅之	4. 巻 なし
2. 論文標題 古典和歌の世界と《十二か月風詠》	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 南アジア多言語社会における複合文化のなかの文学伝承（科研報告書）	6. 最初と最後の頁 117 - 184
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前田雅之	4. 巻 52
2. 論文標題 古典註釈の展開を通して 宗祇から契沖へ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本思想史学	6. 最初と最後の頁 5-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前田雅之	4. 巻 241
2. 論文標題 実朝の題詠歌 結題（＝四字題）歌を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 【アジア遊学241】源実朝 虚実を超えて	6. 最初と最後の頁 81 - 97
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計7件

1. 著者名 日本思想史事典編集委員会	4. 発行年 2020年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 718
3. 書名 日本思想史事典	

1. 著者名 久保利孝編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 武蔵野書院	5. 総ページ数 705
3. 書名 源氏物語をひらく 専門を異にする国文学研究者による論考54篇	

1. 著者名 倉本一宏編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 思文閣出版	5. 総ページ数 430
3. 書名 説話研究を拓く 説話文学と歴史史料の間に	

1. 著者名 倉本一宏・小峯和明編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 300
3. 書名 説話の形成と周縁 中近世篇	

1. 著者名 前田雅之	4. 発行年 2018年
2. 出版社 文学通信	5. 総ページ数 335
3. 書名 なぜ古典を勉強するのか	

1. 著者名 前田雅之	4. 発行年 2018年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 215
3. 書名 書物と権力	

1. 著者名 前田雅之	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 515
3. 書名 画期としての室町 政事・宗教・古典学	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	木下 華子 (KINOSHITA HANAKO)  (10609605)	東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・准教授  (12601)	
研究分担者	小助川 元太 (KOSUKEGAWA GANTA)  (30353311)	愛媛大学・教育学部・教授  (16301)	
研究分担者	渡辺 麻里子 (WATANABE MARIKO)  (30431430)	大正大学・文学部・教授  (32635)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	岡崎 真紀子  (OKAZAKI MAKIKO)  (30515408)	奈良女子大学・人文科学系・教授    (14602)	
研究分担者	松本 大  (MATSUMOTO OOKI)  (30757018)	関西大学・文学部・准教授    (34416)	
研究分担者	福田 安典  (FUKUDA YASUNORI)  (40243141)	日本女子大学・文学部・教授    (32670)	
研究分担者	山本 啓介  (YAMAMOTO KEISUKE)  (50601837)	青山学院大学・文学部・准教授    (32601)	
研究分担者	志立 正知  (SHIDACHI MASATOMO)  (70248722)	秋田大学・教育文化学部・教授    (11401)	
研究分担者	松本 麻子  (MATSUMOTO ASAKO)  (70708990)	聖徳大学・文学部・教授    (32517)	
研究分担者	渡瀬 淳子  (WATASE JUNKO)  (90708637)	北九州市立大学・文学部・准教授    (27101)	
研究分担者	内田 澪子  (UCHIDA MIOKO)  (50442497)	医療創生大学・健康医療科学部・教授    (31603)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------